

学校法人洗足学園
洗足学園短期大学
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

洗足学園短期大学の概要

| | |
|-------|---------------------|
| 設置者 | 学校法人 洗足学園 |
| 理事長名 | 前田 壽一 |
| 学長名 | 前田 壽一 |
| A L O | 神蔵 幸子 |
| 開設年月日 | 昭和37年4月1日 |
| 所在地 | 神奈川県川崎市高津区久本2丁目3番1号 |

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

| 学科 | 専攻 | 入学定員 |
|---------|----|------|
| 幼児教育保育科 | | 250 |
| | 合計 | 250 |

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

| 専攻科 | 専攻 | 入学定員 |
|-----|--------|------|
| 専攻科 | 幼児教育専攻 | 10 |
| | 合計 | 10 |

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

洗足学園短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成21年3月24日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成19年7月26日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は地域に密着した短期大学として、十分な素養と優れた音楽力を有した幼稚園教諭と保育士を育成する幼児教育保育科のみの短期大学である。

学校法人洗足学園創設者前田若尾の「若き学徒をして、真の人生の目的に目覚めさせ、さらに人間の天職を悟らせ、謙虚にして慈愛に充ちた心情「謙愛の徳」を養い、気品高く、かつ実行力に富む有為な人物を育成する」という建学の精神の下に、教育方針として6項目が設けられ、教育目的・教育目標も学則などにおいて具体的に定められている。

教育課程については学内で十分検討されたものを適切に運営している。保育士資格・幼稚園教諭二種免許取得という学生最大の目標に対して、適切かつバランスの取れた教育課程を提示し、学生たちのニーズにこたえている。

教員組織は短期大学設置基準に基づいて整備されており、専任教員は短期大学設置基準以上の教員が配置されている。講義室、演習室、実習室など、授業するにふさわしい環境にあり、ハード・ソフト両面で、併設する四年制大学との共有部分を含め、短期大学設置基準に従って整備されている。図書館については学生に必要な施設・図書が整えられている。

単位の認定方法及び単位取得状況は妥当である。卒業生の資格取得率が極めて高い水準であり、また高い就職率を示していることも教職員の努力の結実である。

学生支援については、入試に関する組織的・系統的に整備された体制の下に、多様な選抜が行われている。履修要項、履修ガイド(シラバス)のいずれも分かりやすく記載され、クラスアドバイザーがきめ細かい学習支援を行っている。また学生生活支援として「学生生活サポート協議会」が設置され、重層的な支援が行われている。教員・学生が一体となった多様な活動が展開され、学園祭、クラブ活動も盛んである。学習・学生生活上の悩みは保健室の常駐看護師、学生相談室の専門職員(カウンセラー)、短期大学事務局職員及びクラスアドバイザーが対応できる体制を整えている。就職支援については「進路・就職ワーキング・グループ」や「実習・進路サポート室」があたり、極めてよい就職内定を実現している。

教員の研究活動については、個々人によってばらつきがあるが、おおむね活発に行われている。一部では、担当授業科目別に構成された「各領域（科目）チーム」による教育実践が活発に行われている。研究費、研究室、研修日も整備され、研究成果の発表の機会として『洗足論叢』などが確保されている。

「着ぐるみ人形劇『ぐりとぐら』」など、学生による授業の成果発表を兼ねた公演が長年にわたって地域住民などへも開放されており、伝統的な活動が地域への活動として貢献している。

理事長は短期大学長を兼務し、運営はスムーズに行われ、その職責を完遂している。事務組織は現状十分機能しており、諸規程が整備され、適正に執行されている。

財務運営については、各部門関与の下、事業計画、予算を取りまとめ、毎年度の予算案が作成され、予算執行が適正に行われている。財務体質については課題があるものの、健全に推移している。

自己点検・評価活動で得られた課題を教職員一人ひとりが共有し、平成 20 年度以降の事業遂行に向けて課題の明確化と具体的な課題解決への道を展開し、当該短期大学の改革・改善に向けて意識の共有・深化が図られた。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

（1）特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「ピアノ」、「うた（アカペラ・弾き語り）」の能力を習熟度に応じて確実に身に付けることができるよう、年間を通して「音楽検定」を行い、合格を義務付けることで、能力アップに効果をあげている。
- 「着ぐるみ人形劇『ぐりとぐら』」などの公演は市民にも公開されており、その出演者である学生が履修する専門選択科目「総合表現（ぐりとぐら）」などの授業と相まって学生が保育の学習に意欲的に取り組む契機となっている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 教員組織の「進路・就職ワーキング・グループ」と、就職支援のために短期大学事務局に設置された「実習・進路サポート室」との連携が十分に機能し、過去3年間、就職を希望した学生のうち就職未定者がゼロであるという実績につながっている。

評価領域Ⅸ 財務

- 省エネルギー対策を含め、地球環境保全に向けた数々の試みがなされている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- パンフレットや履修要項には、教養科目が多数掲載されているが、実際には履修ガイドに不掲載科目があり、現状に合わせた修正が求められる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 入学定員及び収容定員超過の状況を改善し、適切な教育条件の保全に留意されたい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 教授会が本来の機能を発揮して、よりよき教育の充実のために努力していただきたい。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金は十分にあるものの、短期大学部門及び学校法人全体の収支バランスの改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

| 評価領域 | 評価結果 |
|----------------------------|------|
| 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標 | 合 |
| 評価領域Ⅱ 教育の内容 | 合 |
| 評価領域Ⅲ 教育の実施体制 | 合 |
| 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果 | 合 |
| 評価領域Ⅴ 学生支援 | 合 |
| 評価領域Ⅵ 研究 | 合 |
| 評価領域Ⅶ 社会的活動 | 合 |
| 評価領域Ⅷ 管理運営 | 合 |
| 評価領域Ⅸ 財務 | 合 |
| 評価領域Ⅹ 改革・改善 | 合 |

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

学校法人洗足学園創設者前田若尾先生の「若き学徒をして、真の人生の目的に目覚めさせ、さらに人間の天職を悟らせ、謙虚にして慈愛に充ちた心情「謙愛の徳」を養い、気品高く、かつ実行力に富む有為な人物を育成する」という建学の精神の下に、教育方針として「敬愛、自主の精神の確立」、「理想は高遠に、実行は卑近に”の実践標語の体得につとめる」ことを中核とし、「謙譲の徳」を養うことを骨格とした豊かな人間性の育成に努めることを教育の目標にしている。さらに教育目標も学則に照らし具体的かつ明確に打ち出している。学生には『短大生のための洗足学園ガイド』を配布し、洗足カラーの説明及び指導をするとともに、授業、行事の中でも担当教職員が具体的指導を行っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程については学内で十分検討されたものを適切に運営している。保育士資格・幼稚園教諭二種免許取得という学生最大の目標に対して、適切かつバランスの取れた教育課程を提示し、学生たちのニーズにこたえている。教育方法や内容は学生に適切に明示されている。授業評価は平成17年度から実施されており、平成17年度の学生による授業評価の試みの反省を平成18年度の実施時に生かすなど、積極的な動きがみられる。特にファカルティ・ディベロップメント(FD)活動に関しては、単に教員が個人の範囲で授業改善を図るのではなく、専任教員及び兼任教員による「各領域(科目)チーム」を組織し、各チームの研修・報告を定期的に行うことによって、全学をあげての授業改善という大きな動きとなっている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は短期大学設置基準に基づいて整備されており、専任教員は短期大学設置基準以上の教員が配置されている。授業、学生指導、その他の校務などに追われるなか、学生の教育・指導に従事している。講義室、演習室、実習室などは授業するにふさわしい環境にあり、ハード・ソフト両面で、併設する洗足学園音楽大学との共有部分を含め、短期大学設置基準に従って整備されている。図書館については学生に必要な施設・図書が整えられ、図書館 2 階の開架閲覧コーナーには短期大学用として保育関連の参考図書が置かれ、さらに別棟に「絵本の部屋」を設置し、絵本や幼児図書を開架して適切に対応している。なお、入学定員及び収容定員の充足率の改善を図り、適切な教育環境の整備に留意する必要がある。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位の認定方法は、期末試験だけではなく、授業担当教員ごとに様々な内容から総合的に判断がなされ、評価は適切に行われており、単位認定や単位取得状況は妥当である。卒業生の資格取得率は極めて高い水準である。また専門職への就職は、若干下がってきているものの、実績としては高い就職率を維持している。平成 19 年度、専門就職先としての幼稚園・保育所・施設 500 園を対象に民間の調査機関による「人材ニーズ調査」を行い、教育実績・効果を確認しており、さらに同窓会を通じて月一度の卒業生対象の相談会で卒業生の状況を把握するなど卒業後評価への積極的な取り組みが行われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入試体制として、入試センター、入試ワーキング・グループなどが組織的かつ系統的に整備され、多様な選抜、特に社会人特別入試が工夫されて行われている。入学予定者に対しては当該短期大学のイベント案内やオリエンテーション・スケジュールなどを配布し、対応は行き届いている。入学者に対しては十分な時間を割いてオリエンテーションを実施し、学業面及び生活面に関する説明・指導を行っている。学習支援に関しては履修要項、履修ガイド（シラバス）のいずれも分かりやすく記載され、クラスアドバイザーがきめ細かい支援を行っている。学生生活支援に関しては「学生生活サポート協議会」が設置され、重層的な支援が行われている。教員・学生が一体となった多様な活動が展開され、学園祭、クラブ活動も盛んである。食堂、売店なども過不足ない。学生寮もあり、アパートなどの斡旋も十分と思われる。また、当該短期大学独自の奨学金制度を用意するなど完備している。学習・学生生活上の悩みは保健室の常駐看護師、学生相談室の専門職員（カウンセラー）、短期大学事務局職員及びクラスアドバイザーが対応できる体制を整えている。就職支援については「進路・就職ワーキング・グループ」や「実習・進路サポート室」があたり、100 パーセントとあってよい就職内定を実現している。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動については、個々人によってばらつきがあるが、おおむね活発に行われている。一部では、担当授業科目別に構成された「各領域（科目）チーム」による教育実践が活発に行われている。研究費、研究室、研修日も整備され、研究成果の発表の機会として『洗足論叢』などが確保されている。科学研究費補助金などの外部資金の獲得については必ずしも十分とはいえない。研究の水準をあげるためにも、まずは申請数を増加させることが望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

公開講座は企画していないが、長年続けている「着ぐるみ人形劇『ぐりとぐら』」、「幼児教育保育科コンサート」、「ミュージカル『SISTER ACT』（～天使にラブ・ソングを2より～）」、「ベートーヴェン第九（合唱）」などの学生による授業の成果発表を兼ねた公演など、伝統的な活動が地域への活動として貢献している。附属幼稚園でのボランティア活動を除き、学生のボランティア活動は活発ではなく、また、学生の海外教育機関などとの交流についても実績がない。それらの活動促進の工夫と条件整備が望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は短期大学長を兼務し、運営はスムーズに行われ、さらに学内運営についても機敏に学内責任者を招集し、業務執行方針などの指示を明示して、その職責を完遂している。理事会・評議員会は寄附行為に基づき、適正に運営されている。また、教授会に関してはやや課題があるものの、「各領域（科目）チーム」、各ワーキング・グループが実務的に機能している。事務組織は現状十分機能しており、諸規程が整備され、適正に執行されている。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営については、約10年スパンの将来展望を視野に入れ、各部門関与の下、事業計画、予算を取りまとめ、毎年度の予算案が作成されている。予算執行も適正に行われている。公認会計士との連携を含めて適正に業務遂行がなされており、監査法人による年1回の財務実査（現金・預金など）、年2回の監査を通じて、監事への状況報告などが適正に行われ、機能している。財務情報については私立学校法の規定に基づき、開示体制も整えられている。

過去3ヶ年の消費支出比率平均は、学校法人全体、短期大学部門とも100パーセントをやや上回っているが、土地、建物の売却に伴う有形固定資産の減少及び有価証券の購入に充てられたものであり、支出超過の原因は明確であり、内容も把握している。学校法人全体の資産については、長期展望に立ち、資産、資金計画を綿密にし安全かつ効率的な運用を図っている。また、短期大学部門の教育研究経費は全国平均を大きく上回り、同時に学生生徒等納付金還元率も基準値を上回っている。

快適なキャンパス設計が維持されている。消防計画を策定し、法定点検や避難訓練の実施、また、地震対策も適切に実施されている。コンピュータのセキュリティ対策もほぼ万全に講じられている。さらに熱源燃料の変更で使用量の削減、CO2の発生抑制、空調設備の方式変更など、環境保全のための対策が積極的に講じられている。

評価領域X 改革・改善

自己点検・評価活動で得られた課題を教職員一人ひとりが共有し、平成 20 年度以降の事業遂行に向けて課題の明確化と具体的な課題解決への道を展開し、当該短期大学の改革・改善に向けて意識の共有・深化が図られた。第三者評価実施以降も自己点検・評価は継続的に行われるべきであり、その点に熱意と努力を期待したい。

また、学内で行う「学園教育長会議」及び「科長会」の内部評価に加え、民間の調査機関に委託した外部調査及び当該短期大学が関係する幼稚園、保育園からの外部評価を実施している。